

「鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会」第2回幹事会  
議事録(幹事発言)

- ・日 時：令和5年8月29日(火) 午前10時～午前11時50分
- ・場 所：アートホテル鹿児島「桜島」

議事2(1)

これまでの議論を踏まえたゾーニング案の検討の進め方について

(木方座長)

ありがとうございました。非常に膨大な資料でしたが、非常にコンパクトにまとめて説明していただけて良かったのかなと思います。

今回の内容的には、1つは前回の7月にありました、ポスターセッションあるいはプレゼンテーションで頂いた意見のまとめです。そして、これまで議論している4つの論点があります。その論点について詳細なデータをつけていただいているところです。それらを踏まえ、これからゾーニングのまとめ方、その考え方を共有させていただいた上で、どういう形の配慮点があるのかとか、その点についてご意見をいただきたいと思います。

最後にデータつけていただいたとおり、いずれのエリアごとに条件がございます。港湾計画上の条件であるとか、交通の条件であるとか、これがやはり前提になった上で、それを考えていくということになります。

それから最後にコメントありましたけれども、旧港湾合同庁舎エリアが入ってきましたが、ここは非常に重要な土地でして、特に天文館のいづろの交差点あたりとの接続性を考えたときに、ここをちゃんと本港区のエリアデザインとして取り込んでいけるかどうか非常に大きな課題であった訳ですが、今回大丈夫そうだということでしたので、こういったことを踏まえながら考えていくということになります。

以上を前提に53ページ以降のあたりから最終的には進めていく訳ですが、次回の委員会である程度、幹事会の議論を踏まえた素案を出していくことになるわけですが、その際にここでちょっとイメージを示しているような、いわゆるゾーニングに結びつくような図ですね。今ここでは56ページに素案がありますが、ちょっとまだ細かすぎると思うので、もうちょっとラフに皆さんのご意見を集約できるものがないのかなとは思いますが、そういうものを作ると

同時に、今までの資料に基づいて、考え方の基になるような資料をしっかりとつけていくということをやりたいと。それが参考資料6にあるエリアコンセプトプラン、これは横浜の事例ですけれども。これにあたるようなものをしっかりと利活用委員会の中でまとめていって、ゾーニング案をどう読むか、それはどういう根拠でできているか、というのを説明できる資料を作っていこうという風に考えています。実は今日非常に多くの資料が配られていますが、実は先ほど申し上げたコンセプトプランを作っていく上で盛り込んでいくべき内容という意味ですので、最終的にはこれが全部束ねられた本とゾーニングの図が両方でていくというイメージでいるということでご理解いただければと思います。

はいそれでは、いくつかあるので順番にいこうと思いますが、まず7月の県民からの利活用のアイデアのお話。それに関して、今日ここにまとめていただいています。いくつか非常に詳しいまとめがあるのですが、最終的に一番コンパクトに先日詰めたまとめですが、14 ページの色のついたKJ法的にまとめた輪が3つある、黄色と緑と青のこの図かなと思っています。色んなご意見ありましたが大括りにまとめるとこんな感じかなと思いますが、これについて何かありますか。特にご出席された方で感想とかあれば。

(有馬委員)

何回か申し上げたかもしれませんが、僕は全部3日間とも出席して皆さんのご意見を聞きましたが、やっぱり総合的に本港区に望んでいるイメージとしては、多分、癒しとか感動とか、そういうものをとても求めてらっしゃるのかなと、そういうことですよ。本港区って天文館の横にあるので、中心市街地というイメージがありますが、まちなかにそういう癒しの空間、ちょっとロケーションの良い感動の空間、そういうものがあったら素晴らしいなと思ってらっしゃるのかなって感じましたので、それは同感です。ただしですね、やっぱり公園づくりではなくて、都会的なフィーリングで括って、皆さんが思うよりはちょっと上に行く、えっと思わせるようなそういう感性で考えていかないといけないのかなというふうに思いました。

(木方座長)

はい。ありがとうございます。そうですね、これでいくと緑色のところですかね。それから質を高めるという話、景観の話、そういったあたりの話かなと思

います。そのほかいかがですか。私もその辺りに非常に大事だと思っておりまして、特に今まで何となく導入機能の話が中心にあったので、どんなものがあったらいいかなと青色の部分の話が非常にメインになっていて、これはどうしても施設整備というなんとなくここに前提としていくつかあるものですから、それがあってそうやってきたわけですが、どうも皆様のご意見を聞いていると、それもそうだけど、そもそもの本港区の場の雰囲気というか、特に建物に頼らなくてもそこで感じられるような感覚というか、そういったものを非常に大事にしていると。特にその部分が広場であるとか公園であるとか、こういったところに対する期待としてあったのかなと思うので、このあたりはしっかり今後も位置づけていく必要があるのかなと。

(山中課長)

すいません、この15ページのところ右側の方に参考値で数字が入っているものもあれば数字が入ってないものもありますが、これは後々検討委員会の際には入れるご予定なのか、それとも今後入れていくというお考えなのか。というのが、こういう入り込みをベースにして、例えば駐車場の整備であったり、どのぐらい渋滞するとかっていうふうな話にも反映していくのかなという気もしまして、例えばこういうのだとこのぐらいの入り込みが想定されるとか、そういった辺りは何かお考えがありますでしょうか。

(木方座長)

そうですね、なかなか難しいですね。明確な答えはありますか。

(事務局)

事務局の方から御説明します。一応県民の皆様からいただいた利活用のアイデアから賑わいのターゲットというのを10程出させていただいたところですよ。単にそういったターゲットが見えてきたというだけでなく、そういったターゲットの皆さんが大体どれぐらいいるかというのができれば把握ができないかというふうに思って、今ここにお示ししているのは、ある程度根拠を持って説明できるものについては数字を入れておりますけれども、他については具体的にどうやって把握すればいいのかというのは持ち合わせておりませんので、可能であればということをございまして、全て入れかどうかは今後検討していきたいと。できればイメージだけでなく、数的な意味合いでも具体的にタ

ーゲットのほうを把握できないかということで、今試みでやっているところ  
です。

(木方座長)

ありがとうございます。恐らくこれは密度の問題というか集中度の問題も絡  
んでくるので、数として把握しなきゃいけないのは時間的に限られたときに  
沢山来るといふものはしっかり把握する必要があると思いますが、どうでし  
ょうか、公園の利用者とかそういったところでイベント外のところでいうと、  
そこまでの密度にはなっていないと思うので、多分把握すべき優先順位なん  
かではきっとあるのかなとは思いますが、ただいっぺんに多くの方が  
訪れるわけではないから大事ではないということにはならないので、そうい  
う意味では捉えておく必要があると思いますけれども。よろしいですかね。そ  
のほか県民意見についてご意見あれば。

(川畑幹事)

この14ページでキーフレーズの整理というかたちでお示しされていますけど  
も、ずっと234件の意見とか、それからこの前やったポスターセッションと  
か、プレゼンテーションを私も拝見させていただきましたが、色んな意見があ  
ると言うことですよ。そのいろんな意見があって、意見がかみ合わないところ  
もあったりするとは思いますが、この整理されたものの中で、ゾーニングを  
していくために、大体こういう方向だよというような、方向性ですね。これ  
を今ずっと拝見させていただいているところですけども、もう少し見えにく  
いかなど。例えばゾーニングのイメージなんかが出てはいますが、これも  
どうかと私は思いますが、せつかくこれだけいろいろご意見聞いていて、何か  
こういう方向だよというのをお感じというかまとめられているのがある  
のでしょうか。

(木方座長)

その辺りが一番大事なところでして、まずはですね、今の様々のご意見をどの  
程度細かく分けていくかという議論があって、今これ実はいくつかのまとめ  
方がありまして、その今の14ページが非常にざっくり大きく3つにまとめて  
いまして、そのほか、その前のページにある7ページ以降のところはもう少し  
これを細かく賑わいのターゲットというのを分けてまとめています。最終的

には、議論が詰まってくればこういうようなターゲットを分けながら、ゾーニングの中でもどの辺りがどういうターゲットの人にといいことを議論できればいいですが、なかなか最初からそうもいかないなので、今のところの方向性としては、一番最初のまとめ方として、さきほどの14ページ程度、要するにまずここで言う生活の質を高めると書いていますけど、癒しとか憩いとかっていうそういうキーワードでできそうな場所が、いったいどのあたりにどういう形にあるのか。それからアクティブに楽しむとか、景観、これは味わうだけではなく港湾機能ってことも含めてですけど、港らしいものがそのまま残るとかですね。そういったものが大体どのあたりになるのかっていう大きなゾーニングでまずは3つぐらいのエリアで考えていくってところぐらいからはじめていって、それはもう、その後、委員会のご意見も聞きながらどんどん内容を詰めていく、精緻にしていくという形になるのかなと思っています。それは今ゾーニングの話ですけれども、一方で後々の4項目の話とか、あるいは各ゾーンの話もありましたけども、物流動線とか、それから通過交通の処理っていう土地利用をどうするかっていうこと以前に外せない項目というの絶対あるので、それに関してはこの議論をする前に押さえておく必要がある。そのため、そういうものをフレームとして押さえた上で、どのあたりにどういうものを位置づけていって何がどう繋がっていくのかということを押さえる必要がある。今の川畑幹事のご質問から言うと、まずはこの14ページにある今ここで言う生活の質を高める、港の景観を活かす、アクティブに楽しめる、この3つぐらいのゾーンをゾーニング図に落とし込んでいくぐらいのところから始めるかなと思っています。なので、56ページの図は少し細かく作りすぎていて、もうちょっとこれはご意見を聞かないといけないかなと思っていました。

(川畑幹事)

簡単にこういうのが出ると、独り歩きする可能性だってあるので、あまりこういうものは示されないほうがよろしいと思います。まだ議論している最中なので。

(木方座長)

実際にはこの中でこの丸がついているところが消えて、この丸がアクティブに楽しむというさっきのところになるので、それぐらいで収まってくるだろ

うというイメージです。

(川畑幹事)

ゾーニングってどの程度の、いわゆる広さとかそういったものをもってゾーニングするといことがあると思いますが、ずっとこれだけ丁寧に皆さん検討委員会の方も色んなものに参加されたりして、色んなご意見が出ていますが、私もプロセスとしては最高に素晴らしいと思っています。例えばですね、旅客船協会の事務局長の方も来られています、色んな発言の中で、私もそうかなと思ったものが、有村さんが発言されている、69 ページの上から4 番目ぐらいの有村委員のご意見。色んな議論をずっと今までやってきている中で、いわゆる離島航路との共存は難しいと思っていたけれども、もしかしたら何か共存できそうなこともありますよね、と。要するにそういった意見も出てきているし、少し何か良い方法が少し見えてきたと書いてありますが、やはりそういう形でこの本港区を作っていく感じかなと。いい方向だなと私は思います。私もそう思っていますから。そうしたときに、ここは港湾機能、ここはレクリエーション機能、とか何かそういう感じですかね。そういうゾーニングというのと、こういう共存されたようなイメージの港というものとどう表現したらいいかっていうのはよく私もわからないですけどもね。

(木方座長)

まさにそのあたりが非常に我々、私もそれから事務局も悩んでいるところでして。つまりゾーニング図っていうものを作ると、かなりコンクリートにというか限定的にイメージを決めてしまうところが一方ではある。ただ決めないといろいろできないというところがあるので。今考えているのは、先ほども説明したとおり、ゾーニング図はゾーニング図として作っていくことは間違いないですけども、一方でそこでさっきのコンセプトプランっていうように、それがどういうことでできているのかというのをきちんと解釈できるような資料をつけていくと。その上で、その中での状況に応じた対応をしていくしかないかなと思っています。

それからもう一つは、さっきの図で少しまだこれも生煮えのところがあるので、本委員会にはこれが出て行くことはないのかなと思っていますけれども、ちょっと大事だなと思っていることは、色分けだけではなくて関係性をきちんと理解するというか共有していく必要があるかなと。この図でいうと今ウ

オーターフロントのあたりに既存の緑道の線が書いています。それからその緑道に対して中心市街地からアクセスするというか繋がってくる動線が出ていますけど、そういうこの街と港をつなぐような動線とかもしっかりつくっていく必要があるということは恐らく重要なことなので、そのあたりをどういうふうに作っていくのかとかですね。それからさっき言ったようなそういう動線に、スポーツ・コンベンションセンターを含めて様々な施設が結びついてくるわけで。そうするとそういうものがどういうふうなアクセスで繋がってくるかということも考えないといけません。単にゾーニングというのが土地の色分けするというよりは、空間を結びつけて、その全体のネットワークを作っていく上での仕組みというのか、そこを示すものである必要があるのかなと思っています。ですので、この図でもう少し、さっき言いました通り、あまりコンクリートに色分けでここは何、ここは何と決めずに、場合によってはオーバーラップなんかも含めながらイメージして作っていくのかなと思っています。その辺りは幹事会としてどういうようなところまでとりあえず作っていくのかということを具体的に議論できるといいですが、場合によっては今日ホワイトボードも用意してもらっているので、こんな書き方ではどうかというご意見があればいただければと思います。

(川畑幹事)

急に私もなんでこうなるのだろうかと思ったものですから、素直にご質問させていただきました。例えば丸にしても大きい丸もあれば小さい丸もありますよね。何の意味があるのかなといろいろ考えてしまいますよね。それがちょっとわからないので、中途半端ならやめたほうがいいと思います。

(木方座長)

そのあたりはその方向に整理した方がいいと思います。

(有馬幹事)

全体のコンセプト、それを先に作った方がいいのかもしれないですよ。僕も最初から考えていますが、先ほど申し上げたのは、都会的なという表現をしましたが、例えば今同じ名前があるので言えないけど、やっぱりアーバンなポート、都会的な港になると、そういうフィーリングでビジュアルにすごくまとまった、そういう感性で全体をまとめていければいいなとは僕個人は思います。

だから全体でそういう、ただこうゾーニングで決めていくのではなくて、全体をそういうイメージをコンセプトにまず作った方がいいかもしれません。

(木方座長)

また進め方とか作り方に関してのご意見とか、その他いかがでしょう。

(橘木幹事)

今お話を聞いていまして、非常に理解する部分ではありますが、そういう進め方はもちろん必要だとは思いますが、すごく時間がかかるのではないかと、そういうふうに考えます。今まで委員会が立ち上がった中で、ある程度決まったコンセプトもありますし、賑わいのある港づくりとか、港湾機能を維持しつつというようなこと、回遊性であったりとか、そういったことが出ている中で、ある程度具体化していてもいいのではないかと考えています。例えば、今までの委員会の中での話を聞いていますと、ドルフィンポート跡地にはコンベンションセンターを作るというふうにある程度決まっていると認識していますが、そこを核にして、当然それを作るのであればその近隣に駐車場のゾーンも必要になってくるでしょうし、そういう具体的などころを少しずつ詰めてフィックスするというのも必要ではないかと考えます。例えば我々は港湾関係者ですけれども、港湾機能の維持をどのように図るのか。現状の場所がそのゾーンの中に入っていくのか、それとも全くゾーンから外れるのか。そういうことも含めてある程度大まかなところで具体化していかないと、皆さんの意見を聞いていると中々時間がかかる、抽象的過ぎるのではないかなという気がします。以上です。

(木方座長)

ありがとうございます。その辺りのせめぎ合いに非常に苦慮しているところがありまして、コンセプトから議論を詰めていけば間違いない。その一方でおっしゃるとおり具体化しなければならぬというのものもある。先ほどたたき台を示してご批判いただくと思った図などはその辺りの悩みがそのまま出ているというかですね。一方で具体的に作ろうというイメージも含めて、なんとなく丸であるということも非常に難しいですね。これ作ってしまうと、さっきのお話のとおり、また誤解も生むと思うので。そのあたりどの程度どうやって進めていくのかということもあります。ただ一方で会議の回数

も限られているので、今後もある程度進めていく上では具体的なことも書いていく必要がどこかの段階ではあるのかなと思います。

(平田幹事)

旅客船協会です。ゾーニングについても、北ふ頭、南ふ頭、ドルフィンポート含めてですね、先ほど有馬委員も言っていたと思いますが、やはり何を求めているのかっていうのは、癒しとか感動とかこういったものを求めているのではないかという意見がありました。ドルフィンポートは過去20年ずっとそういった空間で、県民の皆さんにもそういうことが認知されてきた、そういったものもやっぱり大事なのかなとは思っております。

それで一応14ページにあるような憩いであったりとか公園であったり、娯楽、食、こういったものをゾーニングの中で検討しながら、それをつなぐような北ふ頭、南ふ頭、あと浜町。このやっぱ一体化したようになっていう計画は必要かなど。この場で、各個別にやっぱゾーニングを出しにくいのかなという気はします。あとまた北ふ頭についても、一応先ほど川畑幹事が言われていましたが、これまで委員の方々は、高松港とか長崎港とか現地も視察されましたし、先月のプレゼンテーションこういった中でも県民の方の意見を聞かれたと。そうした中で、総合的に検討して北ふ頭について、北ふ頭に限らず、私どもの方では今まで、今でも、これから先もなんですけど、港湾機能の確保っていうのを基本に検討していただきたいということで、お願いしてきたところでもありますので、こういったのも第一に考えながらですね、共存できるようなですね施設作りとか、こういったものができれば、それでいいのではないかという気はしていますけどね。

(木方座長)

港湾機能を確保しつつ賑わい空間と共存とするなら、橘木幹事もおっしゃっていましたがけれども、その場所に至るまでの他のエリアとのつながりとか、様々なところでの必然性があるってその場所で共存してくる部分になる。空間の押さえというか、どの辺りがどのぐらいっていうのは場合に応じて考えないといけない。できる範囲で。

(森幹事)

私は委員にもなっていますので、進め方、先ほどの皆さんのご意見も伺いなが

らですが、県民のご意見、ご要望を踏まえると、どういう機能があった方がいいのかということ、それをどこに配置していくのかということですが、やっぱりどういうコンセプトでというか、どういう機能が求められているのかというものと。

それから私、前回お話ししたかもしれませんが、ここは外せないとか。例えば港湾機能はこれを維持しましょうとか、ドルフィンポート跡地の部分にはコンベンションを作りましょうとか、ピン止めしておくべきことがあるなかで、それを前提としてどこにどう配置していくと。いわゆる外せないものと、共存という話もありましたけれども、外せないところとその機能を求められているのであれば、そこにある意味共存をどう考えていくかというやり方。そういったものを具体的に検討していくということだと思いますので、求められていることと外せないこと、ピン止めしていくところを両方両にらみといますか、進めていかないと、なんとなくふわふわして定まっていかないということになると思いますので、同時並行してやっていくということが必要だと思います。

(木方座長)

ありがとうございます。非常に的確なご指摘でした。後でそれやってみましょう。ピン止めしないといけないものは何なのかというのはアドバイスの際には非常にわかりやすいことですので。検見崎幹事は今の時点で何か御発言ありますか。

(検見崎幹事)

経済同友会の検見崎と申します。ゾーニングっていうことに関しては、確か第1回の幹事会ですかね。5月に開催されたところで、資料にありますように、1ページ目にあるように、ゾーニングの考え方については幹事会の意見というのは出たというふうに認識していますし、あとそれからその後、ポスターセッションや、プレゼンテーション、それから数回にわたる検討委員会の中で、各委員の意見が出ていますよね。やはり港湾機能は確保すべきであるとかっていう意見も当然だろうと思いますし、先ほどから出ている、憩いの場であったり、或いは癒しのサードプレイスとかっていう表現で組成されていくべきじゃなかろうとか、離島を抱えている、人流・物流の確保であったり、玄関口、ウェルネス県とか文化とかっていうところのお話が出ているので。そうい

うことがある程度出ているところで、今後、これから進めていく中で、ゾーニングのたたき台、先ほど資料にありました関内駅エリアコンセプト、というものについては、今後どこで具体的に中心になって作られていくのかなというのが、少し頭が整理できないところでございまして。そういうところがたたき台として出てくるとまた皆様のご意見がそこにうまく反映されていくのではないかという感じを受けとります。以上です。

(木方座長)

ありがとうございます。私の理解をまずしたお話し上で、事務局にもご確認をと思いますが、基本的にはゾーニングの案と、それから先ほどのコンセプトプランですね。最終的には委員会の方で、オーソライズというか決めていただくことになりますけれども、そのための下準備としての議論であるとか事務的な準備はある程度この幹事会でしないといけない部分もあると思しますので、ちょうど今日やっているような形で、今後も準備をしながら皆様のご意見を聞いて委員会に出していくという形になると思えます。そういう理解でよろしいですか。ゾーニング案とコンセプトプランの取扱は。

(事務局)

この検討委員会はゾーニングについて決めていくということが主なミッションとして議論されているわけですが、今日の資料の52ページ、ゾーニング案の検討の進め方にもご説明させていただいているとおり、4番目「県民からの利活用に関するアイデアを参考に賑わいのターゲットや鹿児島港本港区の魅力などを明確にし、ゾーニングの検討やランドデザインとの調整・精緻化を行うことを検討する」とこのように記載させていただきました。これまで本港区の再開発にあたりましてランドデザインというものがございましてこれを基本として進めると。考え方として踏襲するということでございしましたが、委員や幹事の皆様のご意見、または県民の皆様のご意見を踏まえてこのランドデザインを精緻化、別の資料では拡充というふうに書かせていただきましたけれども、肉付けが必要でありましたらそのような作業をさせていただきたいというふうに思っております。その作業のまとめ方として、先ほどご紹介いたしました関内エリアのコンセプトプラン、こういったものを参考にしながらまとめていく、このような進め方もできるのではないかとこのように考えているところでございます。

(木方座長)

そこを幹事会と委員会でやっていくっていう理解でよろしいですね。

(事務局)

はい、それで。

(木方座長)

一通り所感とかご意見をいただいたので、より具体的な話をあと一時間程度していきたいと思います。一つは先ほど有馬幹事からお話のあったコンセプトをまずしっかり考えたいと。それから森幹事からありました、ピン止めすべきもの。これは絶対決まりであるということを確認していくことも大事だということ。まずそのあたりをやっていきたいなと思っています。さっきありましたイメージ図は細かすぎるかもしれないので、もう少しラフな図を、ホワイトボードもありますので、私の方で示しながら確認して最終的に今度の委員会に出していくもののイメージを共有していきたいと思います。

まずですね、ピン留めしなきゃいけない、絶対必要なものは港湾機能だと思いますので、南ふ頭、北ふ頭のふ頭用地、港湾機能はその通りだろうと思います。当然その後の共存のイメージはまだどこかで描けるのかもしれませんが。まず前提としては、それはそこであるということでもよろしいですかね。今言いました様な南ふ頭、北ふ頭の港湾機能の部分はピン止めできるエリアかなと思います。よろしいですかね。あとピン止めしなければならないという話で何かありますか。それでいうと、ドルフィンポート跡地にスポーツ・コンベンションセンターを作る計画があります。ドルフィンポート跡地の中でどう作るかという問題、駐車場の取扱というのはありますけども。

(川畑幹事)

色んな意見が沢山合った中で、例えばウォーターフロントパークは残すべきだという意見が強かったですよね。それをどういうふうにするかというのは、また別の議論としても、今おっしゃっているピン止めという感覚でいくと、ウォーターフロントパークは残すということが大半の意見であったと思います。

(木方座長)

もう一つ、今度の取りまとめで大事だなと思ったことは、ドルフィンポート跡地のスポーツ・コンベンションセンターの基本構想検討委員会の時に、全部使わず多目的広場を残すということを決めました。有馬幹事のお話の、本港区全体のコンセプトをはっきりさせていくということであると、癒しの空間というのは、ドルフィンポートの一部を含めての癒しの空間ということなのかなと考えています。緑地空間の図が楕円形になっているのはそういうわけです。ここがウォーターフロントパークで、ドルフィンポートですけれども、具体的にどういう形になるかというのはまたデザインの問題もありますが、ウォーターフロントパークに限らずというか、ウォーターフロントパークとドルフィンポート跡地も含めたこの空間に癒しの空間があるってということは、ある程度県民意見の中で出て来たものとして、取り入れてもいいのではないかと考えています。

(川畑幹事)

今のお話でいくと、お2人お見えですけど、例えばふ頭間道路がありますよね。ふ頭間道路はどうするのでしょうか。

(木方座長)

ふ頭間道路は残すということです。ここはもうここ通る、これはもう変えられないと思いますので。そっちを先にした方がよかったかもしれませんが、こういう形でこれは残すということです。説明が難しいですが、空間として繋がるってことなので、全部更地にするという話ではありません。港湾機能と物流動線というのは外せない要素として必ず出てくるかなと思います。

(川畑幹事)

またいろんな議論があると思いますが、今北ふ頭の話が出て、これはこうですよって話だったのですが。ご存知のように、北ふ頭でも今喜界航路があって実際使われているし、例えばターミナル、4号上屋、1号上屋も一部は使われてないというところがありますので、結局そういうものをどう今から使っていきますかということをはっきりと位置付けていかないと、今中途半端な状態になっているわけですが、さっきから出ているような癒しの空間であるとか、いろんな使い方というのでいけば、より、そういうことができるような、そういう方向に進むような方向性、ゾーニングを決めていかないと。4号上屋

はどう使いましょうね、ターミナルをどういうふうに使いましょうということが全然出てこないですよ。今このいい機会なのでこういう形で位置付けていけば、そういうやり方ができるのではないかなと思います。いろんな資料がありますけど、この広島の場合なんかですね上屋を全部使って色んなことをやっていますけれども、やろうと思えばそういうこともできるわけですよ。そういうことを提案していくべきじゃないかなと思いますけども。

(木方座長)

その通りだと思います。私も大賛成です。私のお話がうまく伝わっていないかもしれませんが、そういう何か可能性のある場所っていうものをどう連携づけるかといったところが一つの説明になるのかなと思います。最初にお話あった通り、今の4号上屋の活用の問題とかは、港湾機能の確保の中でやっぱり考えなきゃいけない。まさに共存のところの話ですね。だとすると、一方でこの赤動線で示したような物流動線がずっと機能していくという日常がありつつ、何かのタイミングでこの緑の方とうまく繋がりながらここが使えるとかというイメージかなと思います。なので、そのあたりをこれからどう書くかということになります。何らかここに関係性が欲しいわけですね。それをどう表現するかということになると思います。今ここに既存のウォーターフロントの遊歩道がありますが、これとつないでくるのかどうするのかという辺り、それに必要な何か考え方が必要になってくるのかどうかっていうところですね。ここはちょっと課題ですね。どういう表現にするかですね。そのほかはどうですかね。この図入れてかなきゃいけないこととか。先ほどの図が少し細かすぎるので。恐らく絶対外せないのは中心市街地との回遊性というか、動線ですよ。有馬幹事がおっしゃったように、一つはマイアミ通りだと思います。このマイアミ通りから繋がってくる部分は絶対に出てこなきゃいけないわけですね。これがどう先ほどの癒しの動線と結びつくかっていうところが一つポイントになるので、この辺りをどう考えるかっていうこともあります。それからあとは朝日通りの方から来ますよね。それからもう一つは市役所の前、みなと大通りが出てくるので、この3本ぐらいを軸としてあるわけですが、これにどういう意味づけをしていくかということも出て来ます。それから当然横方向には臨港道路があり、当然、第一には物流動線が必要になってくると思うので、物流系のもので一本ありつつ、これだけで横方向をつなぐような何か、こっち側で考えるのかどうするか、またご意見いただければ。あとは、そう考えると、

何か導入ができるところというのは、見えてくるわけですし、この辺りをもう少し、アクティビティなどについて考えていくことになります。

(橋本幹事)

今ピン止めをするということで、確かに4号上屋とか、そういうゾーニングの中に入れたほうがいいのかいけないのかというのは委員会の判断だと思いますけれども、そういうグレーな部分がありますし、あとまた高速船ターミナル、ここをどうするのか。資料から見ると入ってないと思います。あと15番街区。ゾーニングに入る区域といいますか、場所というのも、単に南ふ頭、北ふ頭とか、ドルフィンポート跡地とか、そういう大まかな表現じゃなくて、ゾーニングに入れるべき場所というのをある程度はっきりさせて、あと今度は県民の方からの意見がいっぱいありましたけれども、それをどの辺の方に入れるかというところは、そういう場所を決めることである程度目星といいますか、可能性が絞られてくるのではないかというふうに思うので、細かく先ほど文字で示した14ページの図がありましたけれども、この3つ、5つに分かれるのでしょうか。これをこのぐらいの大ききで、ここに持って行くというふうなところで、ゾーニング案っていうのができ、完成するのかなというふうに思います。そういうやり方をした方がもうちょっとスムーズじゃないかなと思います。

(木方座長)

今のご意見を伺うと、ざっくり北ふ頭だとか南ふ頭だとかっていうふうになってきましたけど、やっぱりここに点線で4号上屋なり、ターミナルなり、1号上屋なりというのがなんかあって、そこにラベルが入ってくるような形で最終的にはいけばいいんじゃないかっていうご意見ですね。15番街区とかドルフィンポート跡地とかですね。既存のことで言うとドルフィンポート跡地にスポーツ・コンベンションセンターが書かれるわけですがけれども、どういう形でどう連続的に作っていくのかなど、多分いろんなまたご意見もあるので、今のところではこの辺りに位置付けてくるということで。問題はですね、有馬幹事がおっしゃったように、このエリアのコンセプトを決める場というか、これにどう繋がってくるのか、面してくるのかという、その辺りのところも少し本当は考えないといけないのかなと個人的には思っています。そのため、こちら辺をどういうふうな表現をするか、ちょっとまだ悩むところではありますが、概ねこの辺りに今後導入されてくる機能が入ってくると。その辺りに先ほ

ど橋本幹事がおっしゃっていたことと言えば、ちょうど既存の施設が点々で出てくるように、ドルフィンポート跡地までしていくのかなと。この場で書くとまたいろいろご意見あるので詳細にはしませんが。そういうことと言うとここに桜島フェリーターミナルがありますし、この辺りには色々とまだあるので、この辺りも点線で書けてくるものもあるかもしれません。あと水族館ですかね。

(山中幹事)

あとすいません。先ほどウォーターフロントのところに、緑で綺麗に囲みたいというお話ありましたが、多分、川畑幹事があれって思ったのが、真ん中に道路があるのではというお話をされたので、今赤で書かれているのが恐らく道路っていうことになると思います。そこは恐らく外せないのだろうなと。それをした上で、例えば赤の線の上の方に、今あるウォーターフロントパーク、その下ももしかしたら使えるのではないかと、丸がおそらく別になるのではないかなというふうな気がします。それで、そこを初めてつなぐことによって、最終的には大きな丸になるっていうふうな流れになるんだらうなっていうふうに思うので、いきなり大きな丸で囲むのではなくて、手前に一つ丸、そこももしかしたら丸という感じで、そこを何らかの形で繋ぐっていうふうなことを検討委員会の中で議論するとか、そういった方法に持って行かれた方がいいのかなって思います。多分誤解があると思うので。

(木方座長)

わかりました。そうですね、2つの丸が繋がるってことでいけばいいですかね。今のところの言い方でいうと、ざっくりばらんにお話ししますと、ここはウォーターフロントパークという既存の公園がありまして、その名前でも呼ばれています。こちらはドルフィンポート跡地の一部を多目的広場にして、一部をスポーツ・コンベンションセンターにするという話をしています。結果的にはもともとゾーニングというか、案としては別のものですが、最終的には一つのものになっていくんだらうなと。形というか色々整備の仕方とか。やはりしっかりと市民県民にわかってもらうような形にすべきだなと思って。私も実は最終的に少し皆さんにお諮りしたいということがあったんですけども。さっきどなたかがおっしゃっていた、キャッチフレーズをとおっしゃいますか。

(有馬幹事)

書いてあるけど、出てはいない。

(木方座長)

ここの今の緑と、ウォーターフロントパークとドルフィンポート跡地の一部の多目的広場、これが何かこう1個になったもの、これに何か名前がついてくるのかなと個人的には思っていたんです。もともとは道路もありますし、空間的には例えばこの同じものにくっつけることは難しいんですけども、ただ、それこそ有馬幹事の言う、場所の作り方とかそのセンスの問題とかそういったところでは多分共通項でいけるところがあるので、逆に言うとそれがしっかりできると、恐らく周りに張り付いている例えばこの旧港湾合同庁舎とかスポーツ・コンベンションセンターとか遊歩道というのが1個にまとまってくると思うんですよね。なので、筋は確かにおっしゃる通り2つの別々の場所なんですけど、できればこれを一括りにコンセプトとかを出せるといいのかなっていうふうに思っています。今日ピン止めの議論の中でほかのところはまた委員会の方のお話を聞かなきゃいけないなどいろいろあるんですけど、何か幹事会として皆さんの意見、県民のご意見を聞いた上でご議論いただければと思うんですけれども。私としては皆さんにお諮りしたかったのは、ここ(ウォーターフロントパーク、ドルフィンポート跡地)の取扱なのですけども。どうですか。

(有馬幹事)

キャッチコピーを提案したのは、もう今の段階ですぐできるので、できれば県民公募をして欲しい。キャッチコピーの中から全体像の名前が決まってくると思うので。公募したらイメージを提案していただくのと一緒のことになるので、早いところ公募していただいた方がいいかなと。いろいろご議論いただいてとても参考になったんですけど。僕なりのこの都市形態の作り方、場所の使い方を設定するとき、一つヒントになるのがコンパクトシティの考え方。イギリスではアーバンビレッジなんですけど。順序よくまずは、そこの広さは決定しているので、その次に、その場所にどういうものを持ち込むかっていう、今そのゾーニングを県を中心に行っている。それがあって最後に道路なんですよ。3つ目が街路の整備なんですよ。用途、ゾーニングが決まらないのに

道路ありきってちょっとおかしいと思う。用途に従って街路は作るべきなので。だから、ゾーニングでうまく全体が決まったときに道路はこっちがいいよね。ここは必要だよ。これいらぬよねという話になってくるので。その順序がちょっと違っているのではと思った。

(木方座長)

これはちょっと外せないですよ。

(有馬幹事)

道路を外せないとか外せるとかいうことではなくて、当然そのゾーニングの中に緑地化が図られたとしたら、そこは真ん中に道路が走ったほうが良いということになるので。僕が言っているのはこれ順序が違いますよということをお願いしている。ついでに、もう僕なりの解釈ですと、ゾーニングの後に街路の整備をして、次に交通の強力な駐車場のネットワークを考え、環境のコントロールも考える。そこまで行き着いたら、高い水準の都市の経営もしていけるようになるのかなというのが一つの、これもご議論あるかもしれませんがアーバンビレッジの作り方の一例なので。参考にしていただけたらいいなと思うんだけど、ここのアーバンビレッジの中の一番トップにやっぱりコンセプトみたいなものがない。今度は、用途をいろいろ考えるときに選択ができない。だからこの港湾という非常に大きな魅力的な場所のネーミングとコンセプトが一致したものが先に作られたら、あとはそれに従って用途のゾーニングもうまくやっていけるんじゃないですか。

(木方座長)

要するにコンセプトがしっかりあって、それに基づき、あるべきものがある、ということですね。そのあとどこにどう動線をとるかということですね。

(有馬幹事)

どんなものが良いかということを取りあえず決めてゾーニングをして、街路の整備をして、交通のネットワークを図ると。

(木方座長)

なかなか優先順位は難しいことで、なかなか道路はつけかえられないんです、

簡単にですね。多分それは再解釈ですよ。それをどう位置づけるかってことですよ。

(有馬幹事)

緑地は残したいが、緑地化をどうかという白紙の状態の中で、先に道路があるから緑地化をしようというのはちょっと違うんじゃないですか。

(川畑幹事)

今ウォーターフロントパークとドルフィンポート跡地をまとめて何かそういうネーミングじゃないけどなんかそういうのがいいんじゃないかっていう座長のお考えのようなのですけれども、昔話になりますけれども、もともとここはマリントラスっていう表現で言っていた時期があって、その後ウォーターフロントパークができましたね。それからこの再開発用地については定期借地で最終的にはドルフィンポートになったわけですけれども、別にマリントラスという名前がなくなっても別にどうってことはなかったし。何か名前つけないとコンセプトに合わないとかっていう話ではないんだらうなど。例えばですね、スポーツ・コンベンションセンターって言っていますけれども、これできたら名前つくかもしれませんよ。そうした時、この前決めた名前はなんなんだとか色々出ますよね。やっぱりわざわざそういうことをする必要はないんじゃないかなと思います。コンセプトはコンセプトとして名前つけなきゃコンセプトじゃないってことはないのです、当然この辺の場所ってわかっているのです。コンセプトをちゃんとするだけで私はいいと思います。

(有馬幹事)

僕が申し上げたのは、時代で名前がいろいろ変わっていくというのはよくないから、この際、もう名前をきっちり。今川畑幹事がおっしゃるようにスポーツ・コンベンションセンターは名前がつきますよ。全体のネーミングはちゃんと後世に残るようなずっと続いていっていただけるようなものにしないと、ドルフィンポートを悪く言うわけじゃないんですけど。何かこうドルフィンポートが代表しているみたいに見えたんですよ。

そこもコンベンションセンターが、代表しているみたいに見えるのでは。だってここ港ですよ。港を含んだもっと広い土地なんで。後世に残るようにこの地区は何と呼びますかという、公募をしたいということ。

(木方座長)

私も有馬幹事とちょっとその辺りの考えは近いと思っています。

私もいつまでもドルフィンポート跡地とかウォーターフロントパークとかって個別に言うのはやめたいんですよ。それによって非常に議論がすごく矮小化しているというか。もっと市民の方は、いやそこに癒しの場が欲しいんだと。別にそれはウォーターフロントパークであろうが、多目的広場であろうが、スポーツ・コンベンションセンターのロビーであろうが、別にそういうこと言っているわけじゃないんだけど、いつまでたっても何となくある意味、行政用語というかですね、ウォーターフロントパークプラス多目的広場、ドルフィンポートの一部とか言っているんで何かコンセプトがまとまってこないというか空間像がまとまってこないかなと思っています。それこそ例えばですけど、今鹿児島市さんは加治屋の杜公園などの名称を使っていますんで、例えば仮にですけど「みなとの森公園」などと名前つけちてみるだけでも大分違うと思うんですよ。そうしておいて、それに「みなとの森公園のスポーツセンター」とか、或いは「文化センター」ができるかもしれないけれども、一言でみんながイメージできる物があってそれを代表するような空間が、どういうものかわかりませんが、広場としてあるっていう、のが多分一番スタートしやすいのかなと個人的に思います。いかがですかね、少し前のめりな議論になっていますので、いやいやそんなということはちょっとってこともあるので、これはここで議論していただいた上で、その議論を踏まえてですね、委員会に出していければと思っていますけど。

先ほどの15ページですね、このまとめでも非常にやはりこの憩いの場とか癒しの空間とかって欲しいっていう意見は強いので、その部分を表に出したいわけですが。今何となく裏になってしまっているというか、ウォーターフロントパークと、ドルフィンポートは体育館が建つ敷地といったような話になってしまいが、そうではないと。その部分がちゃんと表が出るような形のゾーニングが絶対に必要ではないかなという事は個人的に考えています。

(山中幹事)

今その15ページのお話で、いろんなターゲットの方がいろんな求めているっていうお話されましたけど、今これだけ見れば確かにいろんなご意見まとめ

てこの通りかなというふうに思うんですけど、4つの視点っていうのがあったかと思うんですけど、4つの視点とこれがどういう関係なのか。最終的に先ほどからお話が出ている56ページのところで、ちょっと私が違和感があったのが、言葉が右下にあるんですけど、この言葉がどっから来たんだろうなっていうふうなのに少し違和感があって、最終的にこういう言葉で色んなゾーニングをするっていうふうな方向になるのかもしれないんですけど。この言葉はちょっとなくてもいいのかなっていうふうには。

(木方座長)

その前の7ページからあるアイデア取りまとめのところの一番右の本港区の魅力ってこの言葉なんです。台風で流れたときの委員会にたたき台として出そうと言って作ったキーワードが残っているので、川畑幹事がおっしゃったように、もう少し丸めないといけないということがあるので、多分これはこのまま出ていくことはないと思います。一応そういう意味ででてきているものです。

(山中幹事)

この10ページとか11ページとかにあるこの一番右側の本港区の魅力、それからその一つ左側のにぎわいのターゲット。これが恐らくこういうのをベースにゾーニングをしていきたいということになるかと思うので、ここは少し何ていうんでしょうね、15ページの中では賑わいのターゲットしか言葉が来てなかったんで、例えばこういう言葉でいこうと思いますっていうのを、キャッチフレーズじゃないですけど、これを少し際立たせてあげて、それが4つの視点とどう絡んでいるのかというところを少し整理してあげれば、次に進みやすいんじゃないかなって。なんか今だとこの全然この本港区の魅力っていうのがあくまで例ということを書いてるんですけど、ちょっと表に出てきてないなっていうふうな感じを受けました。

(木方座長)

難しいところです。今のところこの一番左側にある生活の質を高める、アクティブに楽しめる、港の景観を生かすぐらいからまずスタートし、そこを次のステップの方に入れてくっていう。最終的にはそういう順番でいかないといけないなというところですね。

(山中幹事)

参考にしていただければ。今木方座長が書かれたそのホワイトボードの説明ですけど、ちょっと見た感覚でいきますと天文館から来るということを考えれば、ウォーターフロント、今その緑で囲っているその部分っていうのが恐らく中心になるんだらうなっていう気はしました。なので、もちろん先ほどから出ているキャッチフレーズっていうのもあるんでしょうけど。本港区エリア景観デザイン調整会議の中でも少し話が出ましたけども、回遊性という話の中で、恐らくそこが起点になるんだらうなという気はするので。委員会の中でもそこが起点になるんだということを少し言ってあげて、そこからゾーニングに広げていくという方向も一つあるのかなという気がいたします。

(木方座長)

それを私は一番、実は期待したいと思っていまして、結局4項目という中で一番大事なのが中心市街地と港のエリアをどうつなぐかっていうことだと思うんですね。中心市街地はかなり面的に広がりがあるエリアなわけですね。本港区も実はエリアですよ。これだけの広さがあるので、エリア対エリアじゃなきゃいけないんですが、本来だけど今のところ、さっき有馬幹事がおっしゃった通り、ドルフィンポート跡地とかスポーツ・コンベンションセンターとか、ウォーターフロントパークとかっていう感じで、個別に話をしても、やはりあれもこれもあつたらいいや、となつて全体として対処できるものが何かないと多分中心市街地とは繋がってこない。なので、そういう意味でいうとやはり、中心市街地と対するものは施設じゃないと僕は思うんですよ。ある程度の空間とだと思つるので、それをきっちり位置づけた上で、その残つたところにどういふ賑わいの場を考え、ゾーニングを作っていくのが、多分骨格として一番素直じゃないかなと思います。

(森幹事)

検討委員会でも出た意見と、それからゾーニング案はある程度33ページ、34ページに書いていただいているようなのが何となくまとめていただいているのもあつて。キャッチフレーズというか、ドルフィンポートと皆さん言うので、私去年から鹿児島なのですが、ドルフィンポートは皆さんすごく浸透しているものなので、何かそういうものがあるといいですよねということはずごく

分かります。でも本港区じゃ駄目なんですかねという気もしなくもないですけども。それではいけないでしょうかね。

(有馬幹事)

僕も日本語がいいと思うんですよ。どちらかと言うと。日本語が後世に残りやすいので。港というイメージは是非とも残していただきたい。

(木方座長)

本港区って多分本港というのが堅いのでは。「みなと」という言葉がどこかに入るといいですよ。

(有馬幹事)

座長のおっしゃるとおりちょっと硬い。関心を持っていただくと同時に、県民の方々がどんな思いでここを見てらっしゃるかということは、ネーミングを公募したらわかるんじゃないかなと。それを踏まえた上で、とにかくここはそういう方向でまず1番目に緑地の話と全体像のネーミングと。それだけはぜひ決めていただきたいな。

(木方座長)

そういう提案するという事。これは幹事会なので、ここで決めるわけではないので、これを提案して委員会で揉んでもらうということなので。

(森幹事)

名前を早めに決めたほうがいいのかそういう感じでしょうか。後からでもいいのではないかという気もいたしますが、最初の方がいいんでしょうか。

(有馬幹事)

名前はコンセプトになるだろうから、名前にふさわしいということになっていくんだろうから、最初にそこを掲げた方がよろしくないですか。ということです。

(木方座長)

仮の名前でもいいですよ。有馬幹事のご提案は、公募というか募るべきという

ご意見ですから。ただ、それはすぐにはできないので。私はどちらかという、今後の議論をしていく上で何か仮の名前でもいいから何かつくといいなと思っていましたけれども。

(橘木幹事)

名前についてということで、それはそれでいいと思うんですけども。今日は幹事会なので、委員の方も入ってらっしゃるので、どうしても委員としての意見が反映されているような気がしまして、名前とかそれは委員会の方で決めていただければいいのではないかと思います。今日の幹事会のテーマは、ゾーニングについてということですので、もちろん関連がないとは申しませんが。もうちょっと具体的なところで、ちょっとお尋ねしたいことが一つあります。まず、鹿児島市が北ふ頭にサッカー場を建設したいということで、ゾーニング案の中に入ってくるのか入ってこないのか。この位置付けはどうなのかちょっとお聞きしたいんですが。委員会でそれがテーマになるのかならないのかその辺をちょっとお示しいただきたいなというふうに思います。

(木方座長)

幹事会としては取り扱うことは難しいです。今県の方から鹿児島市さんに8項目の問い合わせが来ていますので、その回答が委員会に帰ってきて、委員会でどう取り扱うかなので、そこが整理できない限りはこの場では議論できないなと思います。

(橘木幹事)

ゾーニング案として入れるか入れないかということも決められないということでしょうか。

(木方座長)

委員会の方で決めていただいた後ということですね。なので、今のところは作り方というか、骨格の作り方を議論し、その結果を踏まえてまた議論することとなります。

(橘木幹事)

わかりました。

皆さんご存知だと思うんですけども、錦江湾の目の前に桜島がありますよね。これ非常に観光資源ということで皆さん評価されていますけど、その反面桜島の北方の海の中に海底火山があるというのは皆さんご存じだとは思いますが、これについて鹿児島市が地震ハザードマップというのを作成してらっしゃるんですよ。その中で、その海底火山が噴火した場合には最大で12mぐらいの津波が発生すると。鹿児島港には大体3.35mの津波が発生すると。しかも発生後の到達時間が2分という非常に短いとハザードマップに記載されています。北ふ頭はご存知の通り橋で結ばれていまして、いわば島のような形状になっています。標高もほとんど1mぐらいあるのかなというふうな程度ですよ。その辺の安全性、地震とか津波とかですね、そういうものに対する安全性というものをゾーニングするにあたっては委員会の方で一つの要素として入れていただいた方がいいのではないかという提案をしたいと思いますがいかがでしょうか。

(木方座長)

そうですね、それはぜひ追加させていただきたいと思います。まとめていきたいのですが、一つはこのまとめ方ということで言うと、ここに示した通り、4項目があると。それから県民意見でできたものを入れていくのですが、今日一つ私の方からご提案したことでいうと、核になるような広場空間をしっかりと位置づけたらどうかということをご提案申し上げます。これはウォーターフロントパーク残すってことをある程度方針を出しています。それから基本構想、スポーツ・コンベンションセンターの基本構想の中でも多目的の広場を残すことになっていますので、そこはやはりそろそろきちんと本港区の核として位置づけていくということをやってはどうかと思います。名前どうするかという話はちょっとなかなかここですぐ決められませんし、慎重に議論して行く必要がありますが、大きな方向性としてはまず空間の確保をしっかりと作って行って、そこから全体のゾーニングを見ていくということでどうかと思っていますが、その方向でいいですか。先ほど仮名称みたいなこととかですね、今後議論していく上での取扱は時間があれば議論しますが、事務局預かりでさせていただければと思います。少しそういうふうな形でまずいきたいと思っています。当然これは確認ですが、川畑幹事から最初ご指摘があったとおりの今ある基盤、特に物流基盤に関しては、保持という前提でこの話をしていますので。そこを変えるつもりはありません。その前提であくまで港のまち

づくりの核になる部分とはっきりさせましょうということです。それはよろしいですかね。はい。そういったことで今後少し作っていきたいと思います。そのほかに、先ほど津波対策とか防災の話は少しご意見ありましたが、ほかにございますか。

(有馬幹事)

天文館を意識していただいとてもうれしく思うんですけど、天文館の代表として。逆に天文館で集客した人も行けるようにしたいんですよ。全然異質な空間なので。天文館の滞留時間が平均して4時間なんですね。あと1時間延ばして、2時間延ばして。実は天神が6時間ですよ。天文館とウォーターフロントまで歩いて7, 8分で、十分回遊できる場所なので、今僕が考えているのは、天文館からも本港区からも行っていただく。最初の幹事会でどなたか港湾関係の方がおっしゃったんですけど。なるべくその天文館に車を停めてきて欲しいというご意見だったので、そういうふうになんて天文館の中で、この資料の中に天文館の駐車場が2600~2800台と書いてあったが、実際上は5300台、有料無料入れると。キャパ的には駐車場の数は十分あるので。どちらか言うと天文館に集約した人もマイアミ通りを通過してそういうふうになっていただいたらいいなと。

もう一つ今度はそのマイアミ通りにご提案があるんですけど、この間ポスターセッションとか出て、僕わざと歩いて帰ってきたんですよ。ただもうすごく暑くて。歩く道全部日陰がないんですよ。だからやっぱこのウォークブルに歩くまちを鹿児島市さんも目指してらっしゃるので、ご提案ですけど、マイアミ通りにデッキみたいなものじゃなくてアーケードを作って欲しい。天文館にはジョイントアーケードもできるので。大体総延長5キロくらいのアーケードでモール化された街なので、天文館と一体化して見えるんですよ。日陰もできる。そうしたら歩いていただく方がちょっと多くなるなと思って。

残念ながら今のところ商店街みたいな形ではないんですけど、歩行量が増えたら皆さん頑張ってお店出していただけるのかなというふうに思うんで。そしたらだんだんこう繋がっていけると思うんで。ぜひそれは提案させていただきたいなと思います。

天文館でやっぱりアーケードがあってよかったなと思うのはやっぱり暑くないですよ。うん。ありがとうございます。

(木方座長)

今のお話のアーケードということは恐らくこの本港区の議論の中ではプラスアルファとなると思うんですけど、ただ動線の考え方として、中心市街地と港町を繋ぎたいと。しかもそこは本当に歩いてくれるように魅力を高めたいというご主旨だと思ったので、それはぜひ委員会の方にそういうことできちんと計画に位置づけてくれということは幹事会として申し上げていくべきだなと思います。その際にやっぱりこの港の魅力、さっきおっしゃった通り中心市街地と違う魅力があるので、それがお互いに感じられるようなまちづくりというのがすごく大事だろうなというふうに思いました。

(山中幹事)

一応幹事会ということで作業部会なので、どこまでの資料出されるかわかりませんが一応作業部会という考えの中で、少し情報として正確なものを検討委員会にお伝えした方がいいだろうなということで、そういう視点でちょっと拝見させていただいた時に、旧港湾合同庁舎のエリアなんかを今回取り入れたいという話なんですけど、参考資料では恐らく出てきていると思うんですけど、今後どういう状況になっていくんだと。当然建物が解体されて使えるという状態になるんですけど、解体されるのがいつとか、そういうのがもしはっきりしているのであれば、そういう情報を載せながら検討委員会の中で議論をしてもらいたいというふうに持って行った方がいいのかなと思います。

(木方座長)

ありがとうございます。それは載せる形で。

(山中幹事)

それとあわせて、今港の現状というのがずっと書かれていたんですけども。データがあればということで一応お話をさせていただきます。例えば、北ふ頭は上屋をどういうふうに使っていますっていうふうな状況があるんですが、例えば南ふ頭ですとか、桜島のフェリーターミナルとかっていうのがどんな状況になっているっていうのが書かれていなかったのが一つと、もう一つはグランドデザインとを見比べたときの北ふ頭エリアの、例えば2階3階はイベントスペースとして活用しているっていうふうな書き方がしてあるんですけど、実際グランドデザインの中では活用されていないっていうふうなことが書

かれていたので、先ほどから出ているグランドデザインの精緻化っていうことを考えると、少しこう違うことが書いてあるので、そこら辺がどういうふうに変ったんだっていうのは少し押さえた上で記載された方がいいのかなっていうふうな気もしましたんで、これは事務局にお願いっていうことになろうかと思えますけど、そこら辺のところもちょっと精査していただければありがたいなというふうに思います。

(木方座長)

最後に今後のことで御報告です。次回委員会にはここでお示した、今ポイントだけですけれども、これをもう少しきちんと綺麗にした図を恐らく作って、たたき台として出すことになると思います。ただ、先ほどご指摘があったとおり、あまり具体的にはまだ書けませんので、現段階では。それとは別に、例えばそれぞれの繋がり方とかですね。この資料についていた少し生煮えの図がついていましたけど、あれをもうちょっと抽象化したようなものと2つバージョンを作ったたたき台として出していくということになると思います。それからもう一つは、ここに出てきている資料が、コンセプトプランに結びついてくるのっていう説明で資料が出ていくことになると思います。よろしいですかね。まだご意見があればお伺いいたしますが、よろしいでしょうか。